

今、この人に Interview

外国人の機能別消防団員 **王 驥**さん



外国人と日本人との架け橋に。 滋賀で暮らす外国人を支援し、地域の人と交流したい。

■交換留学で日本に来られたそうですね。なぜ日本語を勉強しようと思ったのですか。

歴史と読書が好きで、高校生のとき徳川家康の本や川端康成や夏目漱石などの小説を中国語で読み、日本に興味を持ちました。中国では外国語の話せる人材を育てるといふ政策があり、その人材育成プロジェクトに選ばれたので、日本語を勉強してみようと思いました。

■中国では、日本のことを良く思わない人もいると聞きますが、実際のところは？

最近インターネットで情報を集められるので、日本に対して、特に若い世代は偏見等を持っていないと思います。悪い感情を持つことは何の利益にもならないので、友好関係を大事にしたいですね。ただ、日本人は、いつも相手を意識して注意深すぎるように思うこともあります。もっとオープンになって気軽に交流してほしいですね。

■草津市に設立された、外国人の機能別消防団員になったそうですね。どんな消防団なのです。

草津市には約2000人の外国人が住んでいるそうですが、災害が起こったとき、日本語が十分理解できなかったり、会話が難しかったりするために支援が必要になります。そこで、日本語ができる外国人が集まって、日本語のできない外国人を助けようと、草津市の呼びかけで結成されました。メンバーは中国人5人、ベトナム人3人、韓国人1人のあわせて9人で、そのう

ち7人が立命館大学びわこ・くさつキャンパスで学ぶ留学生です。

■王さんは、どのようにこの消防団のことを知ったのですか。

草津市国際交流協会がびわこ・くさつキャンパス内で留学生向けの日本語教室を開催しています。その教室の先生から紹介してもらいました。私はこの教室で勉強して日本語がだんだん上達してきたし、中国語と英語もできるので、いざというときに能力を発揮して社会に還元できるので、やってみようと思いました。

■どんな活動をするのですか。

今年9月1日の「防災の日」に任命式があり、その後9月下旬に救命救急の訓練がありました。このように、定期的に集まって訓練を受け、外国人に向けて防火指導や啓発活動に取り組んでいくことになると思います。実際に災害が起こったときには、避難所への誘導や通訳を担当することになります。草津市消防団本部からマニュアルももらいましたので、いざというときに備えたいですね。

また、活動だけではなくその背後にある考え方に感動しました。外国人のために災害に備える準備をし、組織を作るという心遣いがすごいと思いました。このような日本の制度や思いやりは素晴らしいと思います。

■中国の家族や友人にも、消防団に入ったことを伝えましたか。

●プロフィール●

中国山東省出身。大連市の大学で日本語、言語文化を学び、交換留学で2012年4月に来日。現在は立命館大学経済学部博士課程で研究を行っている。趣味はバドミントンで、大学内のサークルで楽しんでいる。今年9月に草津市の外国人の機能別消防団員となり、災害時に外国人を支援する活動に取り組んでいる。

はい。制服がかっこいいと言われました。また、日本はいろいろな制度が整っていて素晴らしいと言っていましたね。中国には消防隊はありますが、このようなボランティア的な消防団という組織はないので、参考になりました。

■今後はどんなことをしていきたいですか。

外国人と日本人との架け橋になりたいですね。消防団の活動に限らず、外国人が日本で暮らす中で日常的に困っていることに対して支援したり、地域の人と交流できればと思っています。

将来は、日本で学んだ経済のシステムや経験を活かして、中国の経済政策などに貢献できる仕事がしたいですね。中国は経済的に成長していますが、まだ制度的には十分整っていないところがあるので、日本から学んだことを活かしていきたいです。また消防団という仕組みも中国に持ち帰って伝えたいと思います。

「外国人の機能別消防団員」 ～草津市～

草津市で、平成27年(2015年)9月に、留学生を中心とした外国人の機能別消防団員*が任命された。団員には、同市内にキャンパスをもつ立命館大学の留学生等から母国語・英語・日本語が堪能で、日本の生活習慣や文化に理解の深い外国人有志が任命された。

一般的に、災害時には言葉の壁などにより「要配慮者」となると考えられている外国人自らが、被災者を支援する消防団員に任命されたことで、「助けを求める側」から「助ける側」へのシフトチェンジがなされ、防災

減災対策に繋がると注目が集まっている。

主な活動内容は、災害時の通訳・翻訳支援、避難時の情報伝達支援や安全な避難誘導、平時における外国人への防火指導や啓発活動等。

(※) 消防団員の確保が困難となってきた中、消防団活動の効率化を目指して団活動を分化し、それぞれの能力やメリットを活かして、特定の消防団活動に従事する機能別消防団員。

留学生や外国人の支援を目的とした機能別消防団員の制度は県内初。



▲救急救命訓練